

日本のAI戦略：巨大モデル競争から「選択的AI主権」とフィジカルAIへ

現状診断：汎用AIの遅れと日本の真の強み

資本と汎用モデル規模では
米中に大差



米国の民間AI投資は2,858.8億ドルに達し、一極集中が加速。

汎用AIから「産業・フィジカルAI」
へ主戦場を再定義



汎用AI
巨大モデル競争



産業・フィジカルAI

現場データと物理世界を接続する領域に
日本の再ポジショニングの勝機がある。

知財とフィジカル基盤に強い優位性

GenAI特許ファミリー
(2014-23)



GenAI特許ファミリー

世界4位
(約3,400件)

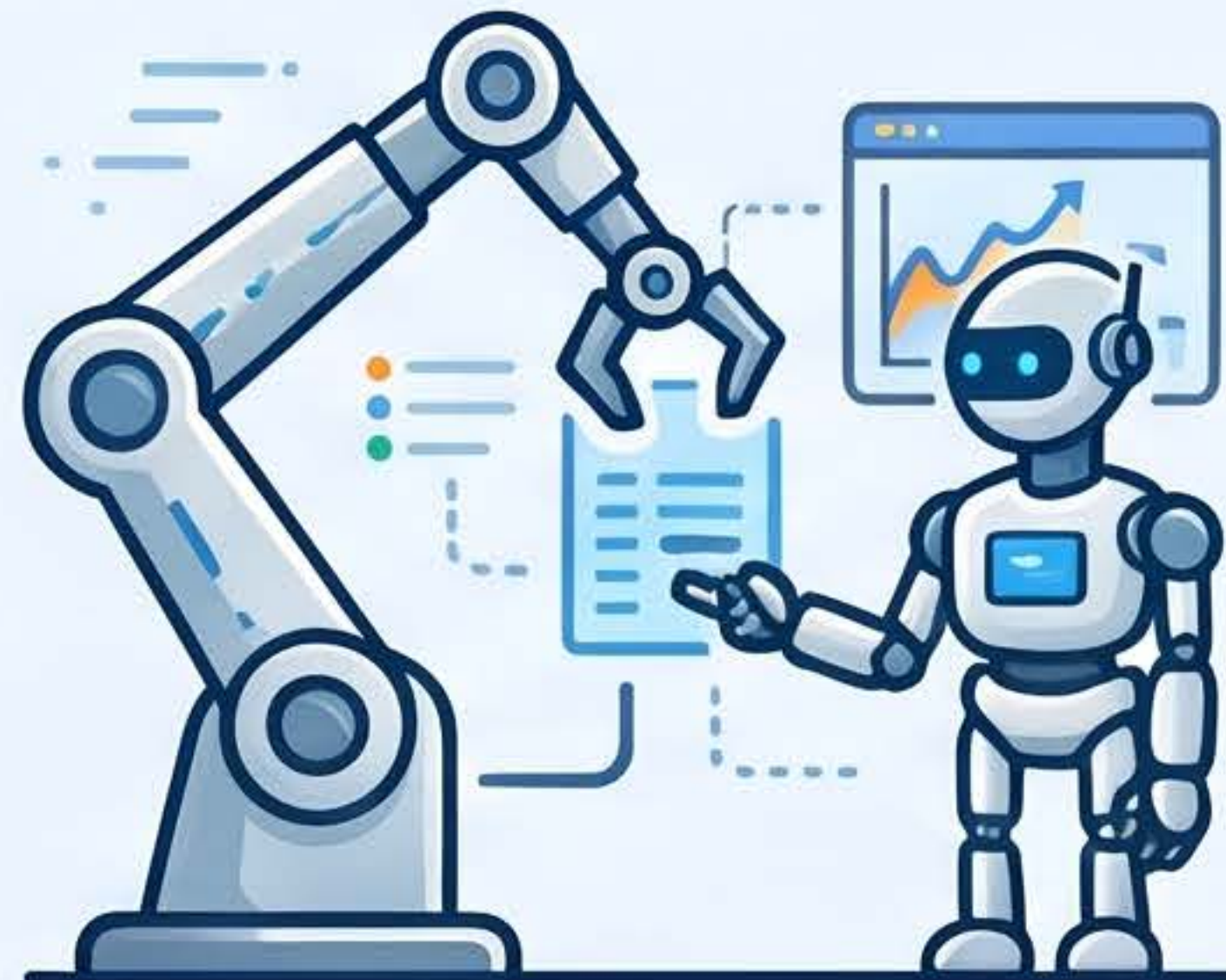
生成AI特許は世界4位、産業用ロボット
導入数は世界2位を維持。

産業用ロボット新規導入
(2024)



産業用ロボット新規導入

世界2位
(4.5万台)



現場データと物理世界を接続する領域に
日本の再ポジショニングの勝機がある。

処方箋：日本が目指すべき「選択的AI主権」

完全自給ではなく
「実質的な制御権」を確保



重み、データ、評価、安全性を
自因で支配・改良できる状態を目指す。

短期投資は「計算資源と
データ整備」に集中



共有GPU
プールの拡張



行政・産業データ
のAI-Ready化

共有GPUプールの拡張と、行政・産業データ
のAI-Ready化を最優先で推進。

目指すべきゴールは
「自立的な切替・運用能力」

海外の
最先端AI活用

特定ベンダーに
依存しない体制



海外の最先端AIを活用しつつ、重要領域で
特定ベンダーに依存しない体制を構築。